

報告書

3R体験ツアー 2026

えひめのリデュース・リユース・リサイクルを体験しよう。



愛媛県
イメージアップキャラクター
みきゃん



Reduce
(ごみを減らす)
Reuse
(くりかえし使う)
Recycle
(再資源化する)

の頭文字「R」をとったもので
「循環型社会づくり」を進めるキーワードです。

スゴecoとは?



県では、3Rの推進や環境負荷の低減など、優れた取り組みを愛媛県資源循環優良モデル(通称:スゴeco)として認定しています。当ツアーでは、スゴeco認定企業を訪問しました。



ツアー日程

中予
コース①

7月22日(水)

- ・(株)愛亀
- ・道後温泉 ホテル古湧園 遥
- ・北米産業(株)

中予
コース②

7月24日(金)

- ・(株)キクノ 松山工場
- ・(株)カネシロ
- ・松山容器(株)

東予
コース

8月6日(木)

- ・(株)日本有機四国
- ・四国電力(株)西条発電所
- ・(株)モリオト



1

株式会社愛亀

資源循環と技術力で支える道路づくり



株式会社愛亀は、道路舗装を中心に、維持・補修からアスファルト合材の製造、品質管理までを一貫して手掛けています。

見学では、スーパーなどで回収されたペットボトルキャップを細かく砕き、舗装材料として活用する資源循環の仕組みについて説明を受けました。

アスファルト試験室では、骨材の粒度や密度、アスファルト混合物の強度・耐久性などを確認する試験について学びました。

また、屋外ではアスファルトを敷きならす重機や舗装面を締め固める重機を見学し、運転席への試乗も体験しました。資源の有効活用と、道路の安全性・品質を支える試験・施工技術の大切さを実感する見学となりました。

2

道後温泉 ホテル古湧園 遥

快適性と省エネを両立する環境配慮型ホテル



道後温泉 ホテル古湧園 遥は、愛媛県で初めてZEB（ネット・ゼロ・エネルギー・ビル）認証を取得したホテルです。見学では、客室や屋上、敷地内の擁壁に設置された太陽光パネル、貯湯槽を巡り、太陽熱を利用するハイブリッド給湯システムや高効率の空調設備について説明を受けました。

また、太陽光で発電した電気を蓄電池にため、災害による停電にも備えています。再生可能エネルギーと省エネ設備を活用し、宿泊客の快適性を保ちながら一次エネルギー消費量を削減する、環境性能と快適性、防災性を両立させた、ホテルならではの工夫を知る機会となりました。

3

北米産業株式会社

木くずを価値ある製品へつなぐ資源循環



北米産業株式会社では、住宅用パネルの加工過程で発生する「のこぎりの粉(おが粉)」や「木の切れはし(端材)」を廃棄せず、エコな猫砂「pelleco.6 (ペレエコ・シックス)」へ再生しています。

見学では、集めた木くずを機械に投入し、強い圧力をかけて直径6ミリの円筒状のペレットに成形する工程を見学しました。接着剤を一切使用しない100%天然素材で、優れた吸水性や消臭・抗菌性を生かした猫砂のほか、ストーブの燃料にも活用されています。

見学後は木材を使ったペン立て作りを体験し、木材加工で生じる木くずを新たな製品へ生まれ変わらせる、循環型もののづくりの大切さを学びました。





1

株式会社キクノ

副産物をリサイクル!環境にやさしいコンクリートづくり



株式会社キクノでは、貯水槽や道路の排水路など、私たちの暮らしを守るコンクリート製品をつくっています。松山工場では、さまざまな製品や設備を見学し、材料を型に流し込んで固めるまでの工程を学びました。また、鉄をつくる際に出る副産物を細かい粉にした「高炉スラグ微粉末」を再利用するコンクリート「KLC(キクノローカーボンコンクリート)」について説明を受けました。KLCは、一般的なコンクリートと比べて製造に伴うCO₂排出量を半減でき、資源を有効活用しながら地球温暖化の防止にも役立ちます。参加者はミニカップづくりも体験し、リサイクルと環境にやさしいものづくりの大切さを学びました。

2

株式会社カネシロ

地域で循環する「紙の地産地消」



株式会社カネシロでは、県内で回収した古紙を四国中央市の製紙工場で再生紙として地域に循環させる「紙の地産地消」に取り組んでいます。工場では、新聞・雑誌類と段ボールを種類ごとに分け、大型機械で圧縮・梱包する工程を見学。積み上げられた約1トンの古紙の塊から、分別の大切さを実感しました。また、手すきはがき作りでは、古紙を水とともにミキサーにかけ、型に流して水分を抜き、身近な古紙が新たな紙製品へ生まれ変わる過程を体験。見学と実作業の両面から紙資源の大切さを学ぶ機会となりました。

3

松山容器株式会社

選別の現場から始まる資源循環



松山容器株式会社は、「廃棄物の再資源化」をモットーに、家庭や事業所から出るさまざまな廃棄物の収集・運搬・処理に取り組んでいます。工場見学では、第1工場では金属やガラスを選別・圧縮する工程、第2工場ではプラスチックごみを搬送し、選別する工程を見学しました。ベルトコンベヤーを流れる廃棄物から、再資源化できるものを一つずつ見極める作業や、大型設備が稼働する様子を間近で確認。ごみとして出されたものが、素材ごとの適切な処理を経て再び資源となることや、正しい分別が安全で効率的なリサイクルにつながることを知る見学となりました。





1

株式会社日本有機四国



有機性廃棄物から、土を育てる肥料へ

株式会社日本有機四国では、食品残さや工業・下水汚泥などの有機性廃棄物を肥料へ再生しています。座学では、有機質肥料「coeru (コエル)」が生まれる仕組みと、食と農業をつなぐ資源循環について学びました。

工場では、原料を戻し堆肥と混ぜ、水分を調整しながら自然発酵させ、重機で切り返しを重ねて熟成する工程を見学。原料の大きな山や重機が稼働する様子から、資源化の規模を体感しました。

さらに、完成した肥料の袋詰めを体験し、廃棄物が農作物の成長を支える資源へ生まれ変わる、地域循環の仕組みに触れました。

2

四国電力株式会社 火力本部 西条発電所



未利用資源を生かす高効率な火力発電

四国電力株式会社西条発電所では、燃料を燃やして生じる高温・高圧の蒸気でタービンと発電機を回し、電気をつくっています。

まず座学で火力発電の仕組みや役割、石炭燃焼で出る石炭灰の一種「ポラスサンド」を再資源化し、土壌や排水改良材に活用する取り組みを学びました。

その後、タービンや発電機、運転を24時間監視する中央制御室を見学しました。

高効率の新1号機では、木質バイオマスや松山市の下水汚泥を加工した固形燃料「BSF」を石炭と混焼しており、地域資源活用やCO₂削減に努める現場を学ぶことができました。

3

株式会社モリオト



独自の加工技術でつなぐ紙管の循環

株式会社モリオトでは、紙を巻く芯として使われた紙管を回収し、独自の技術で「再生紙管」へ生まれ変わらせています。

座学で紙管の役割や再利用の仕組みを学んだ後、工場では回収されたさまざまな紙管を見学。状態や表面を確認し、用途に合わせて切断・接合する作業を間近で見ました。再使用できない紙管も廃棄せず、粉碎して製紙原料としてリサイクルしています。使用済み紙管を製品として再使用するリユースと、原料に戻すリサイクルを組み合わせ、資源を余すことなく循環させる技術と工夫に触れました。





参加者総数：98名（子ども57名、大人41名）
アンケート回収枚数：97枚（回収率99%）

Q これから3Rを進めるためには何をすれば良いと思いますか。

●子ども

- ・要らないものを買わないようにもっと気を付けたいです。
- ・ポイ捨てを絶対にしません。ご飯を全部食べます。
- ・食べ残しが無いようにします。
- ・ぬいぐるみがいっぱいあるので、いここに譲ろうと思います。
- ・まだ使えるものを捨てないようにします。
- ・家のごみを分別したり、買い物するときエコバッグを持って行くなど工夫したいです。

●保護者

- ・ごみを減らし、無駄な買い物を無くすようにします。
- ・一人ひとりの意識を変えることが必要だと思います。
その為にはこのような体験ツアーはとても良いと思います。
- ・リサイクル時は今まで以上にきれいに洗ってから捨てます。買う時に一旦考えるようにします。
- ・分別を気にしているつもりだったけど、リデュースすることを一番に考えたいと思いました。
- ・リユースできるもの、リサイクルの流れなどの具体的な知識を深めたいです。
- ・再資源化できるものは捨てずに回収してくれるところに持って行きます。

参加者の皆さまは、熱心にメモを取りながら各事業所の方の説明に耳を傾け、実際に働く方への質問や工場見学を通して、3Rについて多くの発見や学びを深めました。
今回の体験をきっかけに、一人ひとりが身近なところから3Rを意識し、できることから行動につなげていくことが大切です。

